

被爆体験のお話を聞く会

原爆までもが抑止力として喧伝される今日、原爆の悲惨さは、現実のものとして思い起こす必要があると思います。今年是被爆81年、被爆された方の高齢化が進んでいますが、親の思いを引継ごうと二世の方々が活動されています。このたび、内藤幹夫さんをお迎えしてお父さんの体験をお話しいただきます。

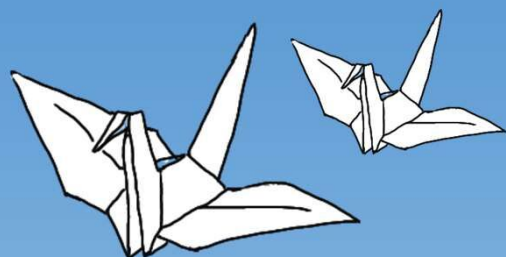
とき **2026年8月5日(水)**

開場 午後 1:30

開演 午後 2:00

ところ **上野原市もみじホール**

3F 会議室 5・6 (入場無料)



内藤幹夫さん(被爆二世)

内藤幹夫さんの父 藤三さんは、徴兵され、広島市比治山の壕(ごう)の中で通信兵としての任務中被爆しました。一命をとりとめましたが、復員して山梨に帰ってからしばらくは寝たきりで、周囲からは「何の病気だ」と心配されたそうです。生前、山梨県原水爆被害者の会(甲友会)の理事として、被爆の実相、平和への願いを伝える活動をされていました。幹夫さんは父藤三さんの遺志を受けつぎ、父親の被爆体験などを伝えられています。

内藤幹夫さんは現在甲府市立の小学校の教員で、以前上野原町立甲東小学校で教鞭をとられていたこともあるそうです。山梨県原水爆被害者の会(甲友会)の理事で、事務局を担当されています。

主催 「原爆と人間」 パネル展実行委員会

お問い合わせ：高倉徳雄 0554-66-3732